

大学番号：国076

注3

[平成26年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

意見伺い

長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科

注2

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人長崎大学
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名・職名・氏名

総務部総務企画課企画班主査（企画）

ムラカミ ヨウスケ
村上 陽介

文教地区事務部総務課多文化社会学部総務班

タダ タクロー
多田 拓朗

電話番号 095-819-2014

（夜間） 095-819-2014

F A X 095-819-2024

e-mail soshikai@ml.nagasaki-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況, 経費	27
4. 既設大学等の状況	28
5. 教員組織の状況	31
6. 留意事項に対する履行状況等	48
7. その他全般的事項	49

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 長崎大学

(2) 大学名

長崎大学

(3) 大学の位置

〒852-8521
長崎県長崎市文教町1番14号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カタミネ シゲル) 片峰 茂 (平成20年10月)		
理事	(マツサカ ノブオウ) 松坂 誠應 (平成26年4月)		
学部長	(サクマ タダシ) 佐久間 正 (平成26年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください (入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合 (平成26年度までの4年間) ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称 (学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
多文化社会学部 多文化社会学科 学士 (多文化社会学)	4 年	100 人	- 年次 人	400 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を () 書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100 (-) [-]								0.99倍	
志願者数	361 (-) [1]	- (-) [-]								
受験者数	361 (-) [1]	- (-) [-]								
合格者数	122 (-) [1]	- (-) [-]								
B 入学者数	99 (-) [1]	- (-) [-]								
入学定員超過率 B/A	0.99									

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格 (いわゆる「留学ビザ」) により, 我が国の大学 (大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校 (専門課程) 及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期 (春季入学以外の学期区分を設けている場合) に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[1] 99	[-] -	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	[]	[]	[]	[]	
3年次	/		/		[]	[]	[]	[]	
4年次	/		/		/		[]	[]	
計	[1] 99		[]		[]		[]		

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	99 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0 %
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	人	平成29年度	人	人		%
合 計	99 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<共通>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	<教養ゼミナール科目>												
	教養ゼミナール	1前	2			2	8					担当教員の見直しのため(26)	
	<情報科学科目>												
	情報基礎	1後	2									兼 2	
	<健康・スポーツ科学科目>												
	健康科学	1後	1									6 兼 7	担当教員の見直しのため(26)
	スポーツ演習	1後	1									兼 3	
	<英語>												
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1					1 兼 2	担当教員の見直しのため(26)
	英語コミュニケーションⅡ	1前	1				1					兼 2	
	英語コミュニケーションⅢ	2前	1									兼 3	
	総合英語Ⅰ	1前	1			1						兼 2	
	総合英語Ⅱ	1前	1			1						兼 2	
	総合英語Ⅲ	2後	1									兼 3	
	Advanced EnglishⅠ	3前	1									兼 3	
	Advanced EnglishⅡ	3後	1									兼 3	
	<初習外国語>												
	ドイツ語Ⅰ	1後	1			1							
	ドイツ語Ⅱ	1後	1			1							
	ドイツ語Ⅲ	2前	1									兼 1	
	ドイツ語Ⅳ	2後	1									兼 1	
	フランス語Ⅰ	1後	1									兼 1	
	フランス語Ⅱ	1後	1									兼 1	
	フランス語Ⅲ	2前	1									兼 1	
	フランス語Ⅳ	2後	1									兼 1	
	中国語Ⅰ	1後	1			2							
	中国語Ⅱ	1後	1			2							
	中国語Ⅲ	2前	1			2							
	中国語Ⅳ	2後	1			2							
	韓国語Ⅰ	1後	1									兼 1	
	韓国語Ⅱ	1後	1									兼 1	
	韓国語Ⅲ	2前	1									兼 1	
	韓国語Ⅳ	2後	1									兼 1	
種別	テーマ	科目名											
モジュール科目	現代社会と	人体の構造と機能	1後		2							兼 3	
		細胞と放射線	1後		2							兼 4	
		遺伝子と生命	1後		2							兼 4	
	生命と薬	ビギナーのための有機化学	1後		2							4 兼 2	教育内容の充実のため(26)
		生命科学のための物理化学入門	1後		2							兼 2	
		生命の化学(ケミカル・イロジ)	1後		2							兼 4	
	安全で安心できる社会	健康と医療の安全・安心	1後		2							兼 4	
		リスク社会と社会科学	1後		2							兼 1	
		科学と技術の安全・安心	1後		2							3 兼 4	担当教員の見直しのため(26)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	教育と社会	教育原理論	1後	2								兼1	
		教育心理	1後	2								兼1	
		教育行政・制度論	1後	2								兼1	
	現代経済と企業活動	経済活動と社会	1後	2								兼1	
		企業の仕組みと行動	1後	2								兼1	
		経済政策と公共部門	1後	2								兼1	
	環境問題を考える	生物多様性を考える	1後	2								兼3	
		都市環境を考える	1後	2								兼2	
		地球温暖化を考える	1後	2								兼4	
	情報社会とコンピュータ	情報の活用	1後	2								兼2	
		情報社会の安全と安心	1後	2								兼1	
		計算機の科学	1後	2								兼1	
	グローバル社会へのパスポート											3	
		東西文化交流の歴史	1後	2								兼4	担当教員の見直しのため(26)
		国際的視点に立った法と政治	1後	2								兼1	
	国際的視点に立った経済	国際的視点に立った経済	1後	2								兼1	
		コミュニケーションの比較文化 人類学	1後	2			1						教育課程(科目内容)の見直しのため(26)
		コミュニケーションの生物学	1後	2								3	担当教員の見直しのため(26)
	コミュニケーション基礎講座	コミュニケーションとIC千 基礎実践A・B	1後	2								2	教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)
		核兵器のない世界を目指して	1後	2								2	担当教員の見直しのため(26)
		核兵器とは何か	1後	2								兼3	担当教員の見直しのため(26)
	環境マネージメント	国際社会と平和	1後	2		1	1						担当教員の見直しのため(26)
		被ばくと社会	1後	2								兼4	
		環境法(国際法)と環境問題への取組み	1後	2								兼1	
	教養と自然科学の科学	環境基本法と環境基本計画	1後	2								兼1	
		環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	1後	2								兼1	
		数学の常識 暮らしの中の情報科学	1後	2								2	教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)
	暮らしの中の科学	物理の考え方 身の回りの中の物理化学	1後	2								2	教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)
		環境・生活と化学	1後	2								兼2	
		免疫と病気	2前	2								兼4	
	先進医学と現代社会	エイズと性感染症	2前	2								兼1	
		感染症と文明	2後	2								兼1	
		話題の先進医学	2後	2								兼1	
	生命と薬	幹細胞と再生医療	2後	2								兼4	
		伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	2前	2								2	担当教員の見直しのため(26)
		薬との賢い付き合い方	2後	2								兼3	担当教員の見直しのため(26)
		出島の科学	2前	2								3	教育内容の充実のため(26)
		疾病と薬物治療	2前	2								兼2	教育内容の充実のため(26)
		薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学	2後	2								1	担当教員の見直しのため(26)
		疾病の回復を促進する薬	2前	2								兼3	担当教員の見直しのため(26)
	疾病の回復を促進する薬	2前	2								兼1	教育効果の向上のため(26)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	モジュール科目 全学モジュールⅡ科目	安全で安心できる社会	医療現場の安全と安心	2後		2							兼4 3		
			自然災害とインフラ長寿命化	2前		2								兼4	担当教員の見直しのため(26)
			破壊事故とヒューマンファクタ	2後		2								兼1	
			水環境の安全と安心	2前		2								兼1	
			環境リスクと社会	2前		2								兼1	
		教育と社会	教育相談	2前		2								兼1	
			教育相談	2後		2								兼1	
			文学と社会	2前		2								兼1	
			身のまわりの科学	2後		2								兼1	
			芸術	2前		2								兼1	
			環境と社会	2後		2								兼1	
		現代経済と企業活動	国際社会と日本経済	2後		2								兼1	
			地域社会と日本経済	2前		2								兼1	
			企業行動と戦略	2後		2								兼1	
			社会制度と経済活動	2前		2								兼1	
			経営情報と会計情報	2前		2								兼1	
		環境問題を考える	環境と民俗	2後		2			1					兼1	担当教員の見直しのため(26)
			環境と社会運動	2前		2								兼2	
			環境問題の歴史から学ぶ	2後		2			1					兼2	
			地域の環境を考える	2前		2								兼2	
		情報社会とコンピュータ	海洋生物の遺伝子多様性	2前		2								兼4	
			問題解決のアルゴリズム	2前		2								兼1	
			情報と社会	2前		2								兼4	
			情報化の役割と課題	2後		2								兼2	
			情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後		2								兼1	
			情報化時代の仕事術	2後		2								兼1	
			ソフトウェアの利用技術	2前→後		2								兼2	教育効果の向上のため(26)
		グローバル社会へのパスポート	モバイルウェブアプリケーション開発入門	2前		2								兼1	教育課程の充実のため(26)
			企業の国際展開とその課題	2後		2			1						
			世界人口の動向と国際開発	2前		2								兼1	
			英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前		2								兼1	
			国際援助と公的部門の役割	2後		2								兼1	
			異文化接触とコミュニケーション	2前		2								兼1	
			途上国支援と国際保健	2後		2								兼1	
		コミュニケーション実践学 基礎講座	対人世界の心理学	2前		2								兼1	
			身体・かかわり・言葉	2前		2								兼1	
			芸術・スポーツとコミュニケーション	2前		2								兼2	
			社会・メディア・政治	2後		2								兼1	
			日本語と表現	2後		2								兼2	
			異文化コミュニケーション	2後		2								兼2	
		核兵器のない世界 を目指して	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2後		2								兼2	
			被ばく者と医療	2前		2								兼4	
			核兵器廃絶と教育	2前		2								兼4	
			文学・芸術と核兵器	2後		2			1					兼2	
			核軍縮の法と政治	2後		2			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
モジュール科目	環境マネジメント	資源・エネルギー問題への取組み	2前	2								兼 3		
		エネルギーマネジメント	2後	2								兼 1		
		化学薬品等の取り扱い	2前	2								2 兼 3	担当教員の見直しのため(26)	
		環境汚染物質のマネジメント	2後	2								兼 1		
		廃棄物のマネジメント	2後	2								兼 1		
		環境分析技術(advanced class)	2前	2								兼 2		
		暮らしと情報の数理	2前	2								兼 2		
	暮らしの中の科学	自然を記述するための基礎数学	2前	2								兼 1		
		暮らしの中の物理科学	2前	2								兼 2		
		物質と化学反応	2後	2								兼 1		
		地球環境の科学	2後	2								兼 2		
		長崎から出発するグローバル世界へ	1後	2				3			1	兼 1		
	多文化社会の諸問題	アジア理解への扉	1後	2			2	2			1			
		アフリカ理解への扉	1後	2				3						
		オランダーヨーロッパ理解への扉	1後	2			1	3				兼 1		
		日本を知る	1後	2			1	3						
		グローバルキャリアへの扉	1前	2			2	3				兼 1		
	教養教育科目	自由選択科目											2 兼 3	担当教員の見直しのため(26)
			日本国憲法	1前	2								兼 3	担当教員の見直しのため(26)
			私たちと法	1前	2								兼 1	
			日本の思想文化	1前	2		1							
			ジェンダーと法	1後	2								兼 1	
			芸術と文化	1後	2								1 兼 2	担当教員の見直しのため(26)
共生のグローバル人類学			1後	2			1							
社会学			1後	2						1				
日本の言語と文化			1前	2				1						
オランダの言語			1前	2								兼 1		
オランダの文化			1後	2								兼 1		
平和講座			1前・後	2								7 兼 5	教育内容の充実のため(26)	
解放講座			1前・後	2								兼 1		
疑似科学とのつき合い方			1前	2								5 兼 4	教育内容の充実のため(26)	
キャリア概論			1前	2								3 兼 4	教育内容の充実のため(26)	
平成長崎塾			1前	2								兼 3		
長崎学			1前・後	2				1				兼 1	教育効果の向上のため(26)	
男女共同参画のすすめ			1後	2								兼 1		
物理科学			1後	2								兼 1		
上級外国語(フランス語)			3前	2								兼 1		
上級外国語(中国語)			3前	2		1								
上級外国語(韓国語)			3前	2								兼 1		
English for Specific Purposes(A)			1前	1								兼 1		
English for Specific Purposes(B)	1後	1								兼 1				
全学乗船実習(後期)	1・2後	2								兼 1				
基礎物理	1前・後	2								兼 1				
基礎化学	1前・後	2								兼 1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	基礎生物	1前・後		2								兼1	
	基礎数学	1前・後		2								兼1	
	基礎英語	1前・後		2								兼1	
	特別活動論	1後		2								兼1	
	教育方法・技術論	1前		2								兼1	
	生徒・進路指導論	1前		2								兼1	
	English for Specific Purposes (C)	1後		1								兼1 教育課程の充実のため	
	家族社会学	1前		2			1					兼1 教育課程の充実のため	
	共同授業	1・2前		2								兼1 教育課程の充実のため	
	宗教学	1前		2			1					兼1 教育課程の充実のため	
	東アジアの国際関係	1前		2			1					兼1 教育課程の充実のため	
	文化観光のマーケティング	1後		2		1						兼1 教育課程の充実のため	
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	1前		2								兼1
	日本語上級ⅠS	1前		2									兼1
日本語上級ⅡS	1前		2			1						兼2	
日本語上級ⅡA	1後		2			1						兼1 教育内容の充実のため(26)	
日本事情	1後		2			1							

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
18	155	0	173	18	162	0	180	
				[0]	[7]	[0]	[7]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<グローバル社会コース>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前	2			1						
		多文化社会のガバナンス	2前	2				2					
		文化のなかのエコノミー	2前	2				3					
		地域をこえるマネジメント	2後	2			2					兼1	
		ジェンダーと人権	2後	2				2					
		紛争と平和	2後	2			1	2		1		兼1	
	社会が作り出す文化、文化を映し出す社会	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2					
		越境する文化	2後		2		2	3		1			
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2					
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1					
		他者と生きる技法	2前		2			4		1			
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5				兼1	
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1					
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2					
		中国語からたどる文化	2前		2		3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4					
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3					
	専門教育科目	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			0 2	4 9		0 1		兼1 担当教員の見直しのため(26)
			フィールドワーク基礎実習	1後	1			2	9		1		
			アーカイヴ実習	1後		1			4				
			映像・デジタルアーカイヴ実習	2前		1							兼1
			サーベイ基礎実習	2後		1							兼1
			インタビュー調査基礎実習	2後		1		2	3		1		
			海外フィールドワーク実習	3通		1			3				
英語モジュール科目	英語発音法	1前	1				1				兼2		
	英語の仕組みと意味I	1後	1			1					兼2		
	英語の仕組みと意味II	2前	1			1					兼2		
	Reading and Writing I	1前	1				1				兼2		
	Reading and Writing II	2前	1				1				兼2		
	Academic Writing I	2後	1				1				兼2		
英語モジュール科目	Academic Writing II	3前	1				1				兼2		
	Reading and Discussion I	1前	1				1				兼2		
	Reading and Discussion II	3後	1				1				兼2		
	Debate	4前	1				1				兼2		
モジュール中国語	中国語総合表現I	2前		1		1							
	中国語総合表現II	2後		1		1							
	中国語文献討論I	3前		1		1							
	中国語文献討論II	3後		1		1							
	中国語プレゼンテーション	4前		1		2							
オランダ語モジュール科目	オランダ語I	2前		2							兼1		
	オランダ語II	2後		2							兼1		
	オランダ語III	3前		2							兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門モジュール科目 専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2					1			
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2			1					
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2			1					
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2			1					
		中国思想史	4前	2			1					
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2			1					
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2				2				
		メディア文化論	4前	2				1				
		現代言語理論	3前	2			1					
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1				
		対照言語学	3後	2			1					
		日本語学	3前	2				1				
	コーパス言語学	3後	2			1						
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	3前	2							兼1	
		日蘭比較文化	2前	2							兼1	
		日蘭交流史	3前	2				1				
アキ カリ	キャリア形成論	3前	2			1						
	自主企画インターンシップ	2前	2			1						
演習科目	基礎演習A	2前	1			4	17		2			
	基礎演習B	2後	1			4	17		2			
	専門演習 I-A	3前	1			10	17		2			
	専門演習 II-A	3後	1			10	17		2			
	専門演習 I-B	3前	1			10	17		2			
	専門演習 II-B	3後	1			10	17		2			
	卒業研究	4通	6			10	17		2			
自由 選 択 科 目	英米文学概論	2前	2							兼1		
	応用言語学	2後	2							兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後	2							兼1		
	第二言語習得論	3前	2							兼1		
	イギリス小説論	3後	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目 自由科目	日本語教育学概論	2後			2							兼1
	日本語指導法	3前			2							兼1
	日本語教育実習	3後			2							兼1

- (注)
- ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 26	科目 71	科目 3	科目 100	科目 26 [0]	科目 71 [0]	科目 3 [0]	科目 100 [0]	

- (注)
- ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<社会動態コース>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1							
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼1		
		ジェンダーと人権	2後		2			2						
		紛争と平和	2後		2		1	2		1		兼1		
	社会が作り出す文化、文化が作り出す社会	文化は社会の鏡なのか	2前	2			2	2						
		越境する文化	2後	2			2	3		1				
		出来事と表象のあいだ	2前	2			1	2						
		人間観とコスモロジー	2後	2			2	1						
		他者と生きる技法	2前	2				4		1				
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後	2			2	5				兼1		
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1						
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2						
		中国語からたどる文化	2前		2		3							
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼1		
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4						
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3						
	専門教育科目	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			0 2	4 9		0 1		兼1	担当教員の見直しのため(26)
			フィールドワーク基礎実習	1後	1			2	9		1			
			アーカイヴ実習	1後		1			4					
			映像・デジタルアーカイヴ実習	2前		1							兼1	
			サーベイ基礎実習	2後		1							兼1	
			インタビュー調査基礎実習	2後		1		2	3		1			
			海外フィールドワーク実習	3通		1				3				
英語モジュール科目	英語発音法	1前	1				1					兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後	1				1					兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前	1				1					兼2		
	Reading and Writing I	1前	1				1					兼2		
	Reading and Writing II	2前	1				1					兼2		
	Academic Writing I	2後	1				1					兼2		
	Academic Writing II	3前	1				1					兼2		
	Reading and Discussion I	1前	1				1					兼2		
	Reading and Discussion II	3後	1				1					兼2		
	Debate	4前	1				1					兼2		
モジュール科目	中国語	中国語総合表現Ⅰ	2前		1		1							
		中国語総合表現Ⅱ	2後		1		1							
		中国語文献討論Ⅰ	3前		1		1							
		中国語文献討論Ⅱ	3後		1		1							
		中国語プレゼンテーション	4前		1		2							
オランダ語モジュール科目	オランダ語Ⅰ	2前		2								兼1		
	オランダ語Ⅱ	2後		2								兼1		
	オランダ語Ⅲ	3前		2								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門モジュール科目 専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2					1			
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2			1					
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2			1					
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2			1					
		中国思想史	4前	2			1					
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2			1					
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2				2				
		メディア文化論	4前	2				1				
		現代言語理論	3前	2			1					
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1				
		対照言語学	3後	2			1					
		日本語学	3前	2				1				
	コーパス言語学	3後	2			1						
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	3前	2							兼1	
		日蘭比較文化	2前	2							兼1	
		日蘭交流史	3前	2			1					
	アキ カリ	キャリア形成論	3前	2			1					
		自主企画インターンシップ	2前	2			1					
	演習科目	基礎演習A	2前	1			4	17		2		
		基礎演習B	2後	1			4	17		2		
専門演習 I-A		3前	1			10	17		2			
専門演習 II-A		3後	1			10	17		2			
専門演習 I-B		3前	1			10	17		2			
専門演習 II-B		3後	1			10	17		2			
卒業研究		4通	6			10	17		2			
自由選 択科目	英米文学概論	2前	2							兼1		
	応用言語学	2後	2							兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後	2							兼1		
	第二言語習得論	3前	2							兼1		
	イギリス小説論	3後	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目 自由科目	日本語教育学概論	2後			2							兼1
	日本語指導法	3前			2							兼1
	日本語教育実習	3後			2							兼1

- (注)
- ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
26	71	3	100	26	71	3	100	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注)
- ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<共生文化コース>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1						
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2					
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3					
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼 1	
		ジェンダーと人権	2後		2			2					
		紛争と平和	2後		2		1	2		1		兼 1	
	社会が作り出す文化、文化を映し出す社会	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2					
		越境する文化	2後		2		2	3		1			
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2					
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1					
		他者と生きる技法	2前		2			4		1			
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5				兼 1	
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1					
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2					
		中国語からたどる文化	2前		2		3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼 1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4					
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3					
	専門教育科目 フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			0	4		0		兼 1	担当教員の見直しのため(26)
		フィールドワーク基礎実習	1後	1			2	9		1			
		アーカイヴ実習	1後		1			4					
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1							兼 1		
サーベイ基礎実習		2後		1							兼 1		
インタビュー調査基礎実習		2後		1		2	3		1				
海外フィールドワーク実習		3通		1			3						
英語モジュール科目	英語発音法	1前	1				1				兼 2		
	英語の仕組みと意味 I	1後	1			1					兼 2		
	英語の仕組みと意味 II	2前	1			1					兼 2		
	Reading and Writing I	1前	1				1				兼 2		
	Reading and Writing II	2前	1				1				兼 2		
	Academic Writing I	2後	1				1				兼 2		
	Academic Writing II	3前	1				1				兼 2		
	Reading and Discussion I	1前	1				1				兼 2		
	Reading and Discussion II	3後	1				1				兼 2		
	Debate	4前	1				1				兼 2		
モジュール中国語	中国語総合表現 I	2前		1		1							
	中国語総合表現 II	2後		1		1							
	中国語文献討論 I	3前		1		1							
	中国語文献討論 II	3後		1		1							
	中国語プレゼンテーション	4前		1		2							
モジュールオランダ語	オランダ語 I	2前		2							兼 1		
	オランダ語 II	2後		2							兼 1		
	オランダ語 III	3前		2							兼 1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門モジュール科目 専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2					1			
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2			1					
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2			1					
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2			1					
		中国思想史	4前	2			1					
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2			1					
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2				2				
		メディア文化論	4前	2				1				
		現代言語理論	3前	2			1					
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1				
		対照言語学	3後	2			1					
		日本語学	3前	2				1				
	コーパス言語学	3後	2			1						
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	3前	2							兼1	
		日蘭比較文化	2前	2							兼1	
		日蘭交流史	3前	2				1				
	アキヤリ	キャリア形成論	3前	2			1					
		自主企画インターンシップ	2前	2			1					
	演習科目	基礎演習A	2前	1			4	17		2		
		基礎演習B	2後	1			4	17		2		
専門演習 I-A		3前	1			10	17		2			
専門演習 II-A		3後	1			10	17		2			
専門演習 I-B		3前	1			10	17		2			
専門演習 II-B		3後	1			10	17		2			
卒業研究		4通	6			10	17		2			
自由選択科目	英米文学概論	2前	2							兼1		
	応用言語学	2後	2							兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後	2							兼1		
	第二言語習得論	3前	2							兼1		
	イギリス小説論	3後	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	自由 科目	教職論	未開講 1後			2						兼 1	教職課程認定申請を取り下げたことに伴う未開講(26)
		英語科教育法Ⅰ	3前			2						兼 1	
		英語科教育法Ⅱ	3後			2						兼 1	
		教育の方法と技術	3後			2						兼 1	
		教育実習(事前・事後指導を含む)	4前			3	1					兼 2	
		教職実践演習	4後			2	1					兼 3	
		日本語教育学概論	2後			2						兼 1	
		日本語指導法	3前			2						兼 1	
		日本語教育実習	3後			2						兼 1	

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
23	74	9	106	23	74	9	106	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	教職論	2	1	専門	選択	教職課程認定申請を取り下げたため。
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」 当該科目は、卒業要件に含まれない自由科目であるため、教職課程認定申請の取り下げに伴い、未開講としても学生への影響はない。</p> <p>「学生への周知方法」 全学生に対して掲示板により周知を行った。</p>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<オランダ特別コース>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1							
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼 1		
		ジェンダーと人権	2後		2			2						
		紛争と平和	2後		2		1	2		1		兼 1		
	社会が作り出す文化、文化が作り出す社会	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2						
		越境する文化	2後		2		2	3		1				
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2						
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1						
		他者と生きる技法	2前		2			4		1				
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5				兼 1		
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1						
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2						
		中国語からたどる文化	2前		2		3							
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼 1		
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4						
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3						
	専門教育科目	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			0 2	4 9		0 1		兼 1	担当教員の見直しのため(26)
			フィールドワーク基礎実習	1後	1			2	9		1			
			アーカイヴ実習	1後		1			4					
映像・デジタルアーカイヴ実習			2前		1							兼 1		
サーベイ基礎実習			2後		1							兼 1		
インタビュー調査基礎実習			2後		1		2	3		1				
海外フィールドワーク実習			3通		1			3						
英語モジュール科目	英語発音法	1前	1				1				兼 2			
	英語の仕組みと意味 I	1後	1			1					兼 2			
	英語の仕組みと意味 II	2前	1			1					兼 2			
	Reading and Writing I	1前	1				1				兼 2			
	Reading and Writing II	2前	1				1				兼 2			
	Academic Writing I	2後	1				1				兼 2			
	Academic Writing II	3前	1				1				兼 2			
	Reading and Discussion I	1前	1				1				兼 2			
	Reading and Discussion II	3後	1				1				兼 2			
	Debate	4前	1				1				兼 2			
モジュール中国語	中国語総合表現 I	2前		1		1								
	中国語総合表現 II	2後		1		1								
	中国語文献討論 I	3前		1		1								
	中国語文献討論 II	3後		1		1								
	中国語プレゼンテーション	4前		1		2								
オランダ語モジュール科目	オランダ語 I	2前	2								兼 1			
	オランダ語 II	2後	2								兼 1			
	オランダ語 III	3前	2								兼 1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門モジュール科目 専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2		1	1				兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2					1			
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2		1						
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2		1						
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2		1						
		中国思想史	4前	2		1						
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2		1						
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2			2					
		メディア文化論	4前	2			1					
		現代言語理論	3前	2		1						
		異文化間コミュニケーション	3前	2			1					
		対照言語学	3後	2		1						
		日本語学	3前	2			1					
	コーパス言語学	3後	2		1							
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	3前	2							兼1	
		日蘭比較文化	2前	2							兼1	
		日蘭交流史	3前	2			1					
アキヤリ	キャリア形成論	3前	2			1						
	自主企画インターンシップ	2前		2		1						
演習科目	基礎演習A	2前	1			4	17		2			
	基礎演習B	2後	1			4	17		2			
	特別研究	3~4通	10			10	17		2			
自由選択科目	英米文学概論	2前		2						兼1		
	応用言語学	2後		2						兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後		2						兼1		
	第二言語習得論	3前		2						兼1		
	イギリス小説論	3後		2						兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育	自由科目 日本語教育学概論	2後			2							兼 1
	日本語指導法	3前			2							兼 1
	日本語教育実習	3後			2							兼 1

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
科目 23	科目 70	科目 3	科目 96	科目 23	科目 70	科目 3	科目 96	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他の内、借用面積47 ㎡を含み、昭和40年4月1 日より借入。 校地面積に算入される大 学用地の見直し及び改修 工事のため(26)		
	校舎敷地	280,586㎡ 283,413㎡	0㎡	0㎡	280,586㎡ 283,413㎡			
	運動場用地	100,475㎡ 109,613㎡	12,796㎡ 0㎡	0㎡	113,271㎡ 109,613㎡			
	小 計	381,061㎡ 393,026㎡	12,796㎡ 0㎡	0㎡	393,857㎡ 393,026㎡			
	そ の 他	157,771㎡ 265,667㎡	107,490㎡ 0㎡	0㎡	265,261㎡ 265,667㎡			
	合 計	538,832㎡ 658,693㎡	120,286㎡ 0㎡	0㎡	659,118㎡ 658,693㎡			
(2) 校 舎	専 用	187,914㎡ 216,050㎡	0㎡	0㎡	187,914㎡ 216,050㎡	改修工事のため(26)		
	187,914㎡ (216,050㎡)	(0㎡)	(0㎡)	187,914㎡ (216,050㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修工事のため(26)		
	101室	205室 217室	525室 617室	20室 (補助職員 人)	3室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			学内センター・研究科所 属の専任教員を除く。 数に誤りがあったため (26)		
	多文化社会学部多文化社会学科		24 26 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	(大学全体の共用分) 図書 1,032,473 [305,823] (997,433 [295,444]) 視聴覚資料 8,521 (5,912) 教育研究の充実及び購入 計画の見直しのため (26)
	多文化社会学部	1,041,000 [306,000] 1,032,473 [305,823] (997,433 [295,444])	28,000 [8,200] 26,000 [7,800] (24,800 [7,500])	24,000 [22,500] 22,000 [21,000] (21,000 [19,700])	6,200 8,521 (5,912)	0 (0)	0 (0)	
	計	1,041,000 [306,000] 1,032,473 [305,823] (997,433 [295,444])	28,000 [8,200] 26,000 [7,800] (24,800 [7,500])	24,000 [22,500] 22,000 [21,000] (21,000 [19,700])	6,200 8,521 (5,912)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 医学分館改修及び中央図 書館の充実のため(26)		
	10,656 ㎡ 10,126 ㎡	1,268 席 1,180 席		962,000 冊 945,167 冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					大学全体	
	12,541 ㎡	運動場、弓道場、テニスコート、ハンドボールコート、プール等						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	} 国費による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、設置計画書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	長崎大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
【学部】	年	人	年次人	人		倍			
多文化社会学部 多文化社会学科	4	100	—	100	学士(多文化社会学)	0.99	平成26年度	長崎市文教町1-14	
教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	—	960	学士(教育学)	1.01	平成10年度	長崎市文教町1-14	
経済学部 総合経済学科 昼間コース	4	265	10	1,350	学士(経済学)	1.02	平成10年度	長崎市片淵4-2-1	
夜間主コース	4	60	5	250	〃	〃	〃	〃	
医学部 医学科	6	116	2年次 5	704	学士(医学)	1.00	昭和24年度	長崎市坂本1-12-4	
保健学科	4	106	3年次 14	452	学士(看護学) 学士(保健学)	1.00	平成14年度	長崎市坂本1-7-1	
歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士(歯学)	1.00	昭和55年度	長崎市坂本1-7-1	
薬学部 薬学科	6	40	—	240	学士(薬学)	1.02	平成18年度	長崎市文教町1-14	
薬科学科	4	40	—	160	学士(薬科学)	1.09	昭和61年度	〃	
工学部 工学科	4	380	—	1,520	学士(工学)	1.06	平成23年度	長崎市文教町1-14	
機械システム工学科	4	—	—	—	〃	—	平成2年度	〃	平成23年度より 学生募集停止 (各学科共通の 編入学定員は、 学年進行に伴い 平成25年度より 学生募集停止)
電気電子工学科	4	—	—	—	〃	—	平成10年度	〃	
情報システム工学科	4	—	—	—	〃	—	〃	〃	
構造工学科	4	—	—	—	〃	—	昭和42年度	〃	
社会開発工学科	4	—	—	—	〃	—	平成3年度	〃	
材料工学科	4	—	—	—	〃	—	昭和45年度	〃	
応用化学科	4	—	—	—	〃	—	平成3年度	〃	
各学科共通	—	—	3年次 —	—	—	—	平成18年度	—	
環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 10	570	学士(環境科学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1-14	
水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.04	昭和48年度	長崎市文教町1-14	

【研究科】									
教育学研究科 (修士課程) 教科実践専攻 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成20年度	長崎市文教町1-14	教科実践専攻は、 平成26年度より学 生募集停止
	2	38	—	58	教職修士(専門職)	0.84	平成26年度	長崎市文教町1-14	
経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻 (博士後期課程) 経営意思決定専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	0.89	平成16年度	長崎市片淵4-2-1	
	3	3	—	9	博士(経営学)	1.11	平成16年度	長崎市片淵4-2-1	
工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻 (博士後期課程) 生産システム工学専攻 (博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	2	200	—	400	修士(工学)	1.08	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	3	10	—	30	博士(工学)	1.16	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	5	5	—	20	博士(工学)	0.85	平成23年度	長崎市文教町1-14	
水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻 環境共生政策学専攻 環境保全設計学専攻 (博士後期課程) 環境海洋資源学専攻 (博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	0.79	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	2	8	—	16	修士(学術) 修士(環境科学)	0.93	平成23年度	〃	
	2	17	—	34	〃	1.14	平成23年度	〃	
	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	1.08	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	5	5	—	20	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	0.60	平成23年度	長崎市文教町1-14	
生産科学研究科 (博士前期課程) 機械システム工学専攻 環境システム工学専攻 (博士後期課程) システム科学専攻 海洋生産科学専攻 環境科学専攻	2	—	—	—	修士(学術) 修士(工学) 修士(水産学)	—	平成12年度	長崎市文教町1-14	機械システム工学 専攻、環境シス テム工学専攻、シ ステム科学専攻、 海洋生産科学専攻、 環境科学専攻は、 平成23年度より学 生募集停止
	2	—	—	—	〃	—	平成12年度	〃	
	3	—	—	—	博士(学術) 博士(工学) 博士(水産学) 博士(環境科学)	—	平成12年度	長崎市文教町1-14	
	3	—	—	—	〃	—	平成13年度	〃	
	3	—	—	—	〃	—	平成16年度	〃	

医歯薬学総合研究科 (修士課程) 熱帯医学専攻 保健学専攻 (博士課程) 医療科学専攻 新興感染症病態 制御学系専攻 放射線医療科学専攻 (博士前期課程) 生命薬科学専攻 (博士後期課程) (旧)生命薬科学専攻 (新)生命薬科学専攻	1	12	—	12	修士(熱帯医学)	0.00	平成18年度	長崎市坂本1-12-4	医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻(博士後期課程)は、平成24年度より学生募集停止。	
	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	1.05	平成18年度	長崎市坂本1-7-1		
	4	62	—	248	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.09	平成14年度	長崎市坂本1-12-4		
	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.28	平成14年度	〃		
	4	8	—	32	〃	0.90	平成14年度	〃		
	2	36	—	72	修士(薬科学)	0.99	平成24年度	長崎市文教町1-14		
	3	—	—	—	博士(学術) 博士(薬学) 博士(臨床薬学)	—	平成14年度	長崎市文教町1-14		
	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	0.80	平成24年度	長崎市文教町1-14		
	国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	10	—	20	修士(公衆衛生学)	1.05	平成20年度		長崎市坂本1-12-4

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

- ・ 「平均定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「—」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学においては学科単位, 大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	梅林 宏道	平成26年4月	核兵器とは何か 市民運動・NGOと核兵器廃絶						
兼任	教授	大井 久美子	平成26年4月	男女共同参画のすすめ	兼任	教授	伊東 昌子	平成26年4月	男女共同参画のすすめ	担当教員の退職のため(26)
兼任	教授	柴多 一雄	平成26年4月	地域社会と日本経済	兼任	教授	赤石 孝次	平成26年4月	地域社会と日本経済	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	高橋 正克	平成26年4月	薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学 平成長崎塾						
兼任	教授	中西 こずえ	平成26年4月	生物多様性を考える						
兼任	教授	藤井 美知子	平成26年4月	情報の活用 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術						
兼任	教授	三根 眞理子	平成26年4月	情報と社会 被ばくと社会 被ばく者と医療						
兼任	教授	柳田 泰典	平成26年4月	特別活動論						
兼任	教授	小原 達朗	平成26年4月	芸術・スポーツとコミュニケーション スポーツ演習 健康科学	兼任	教授	小原 達朗	平成26年4月	芸術・スポーツとコミュニケーション	
					兼任	教授	西澤 昭	平成26年4月	スポーツ演習 健康科学	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	計算機の科学	兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	計算機の科学 問題解決のアルゴリズム	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	畑山 範	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	兼任	教授	尾野村 治	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	生徒・進路指導論	兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	生徒・進路指導論 教育行政・制度論	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	甲斐 雅亮	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	兼任	教授	黒田直教	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	高山 久明	平成26年4月	全学乗船実習(後期) 教育方法・技術論	兼任	教授	高山 久明	平成26年4月	全学乗船実習(後期)	
					兼任	講師	藤井 佑介	平成26年4月	教育方法・技術論	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	早瀬 隆司	平成26年4月	環境リスクと社会						
兼任	教授	原田 純治	平成26年4月	教育心理						
兼任	教授	末吉 豊	平成26年4月	数学の常識	兼任	教授	小林 透	平成26年4月	暮らしの中の情報科学	教育課程(科目内容)及び担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	中山 守雄	平成26年4月	出島の科学						
兼任	教授	堀内 伊吹	平成26年4月	芸術と文化						
兼任	教授	宮西 隆幸	平成26年4月	環境問題の歴史から学ぶ						
兼任	教授	山内 正毅	平成26年4月	スポーツ演習	兼任	講師	田中 志保	平成26年4月	スポーツ演習	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	夢田 彰秀	平成26年4月	暮らしの中の物理科学 地球環境の科学	兼任	教授	夢田 彰秀	平成26年4月	暮らしの中の物理科学 地球環境の科学 身の回りの中の物理化学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	田井村 明博	平成26年4月	健康科学	兼任	准教授	荒木 美幸	平成26年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	戸田 清	平成26年4月	環境と社会運動 平和講座						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	林 秀千人	平成26年4月	科学と技術の安全・安心						
兼任	教授	蒔田 直昌	平成26年4月	人体の構造と機能						
兼任	教授	由井 克之	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	教授	篠原 一之	平成26年4月	コミュニケーションの生物学						
兼任	教授	田中 隆	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	兼任	教授	田中 正一	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	担当教員の見直しのため(26)
				医療現場の安全と安心	兼任	教授	安田 二郎	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	弦本 敏行	平成26年4月	人体の構造と機能						
兼任	教授	永山 雄二	平成26年4月	細胞と放射線						
兼任	教授	堀井 健一	平成26年4月	文学と社会						
兼任	教授	松田 浩	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
兼任	教授	山下 敬彦	平成26年4月	環境法(国際法)と環境問題への取組み 資源・エネルギー問題への取組み エネルギーマネジメント						
兼任	教授	池田 通	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	伊藤 公成	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	尾野村 治	平成26年4月	疾病の回復を促進する薬	兼任	教授	川上 茂	平成26年4月	疾病の回復を促進する薬	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	尾野村 治	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	福澤 勝彦	平成26年4月	情報と社会						
兼任	教授	山地 弘起	平成26年4月	対人世界の心理学	兼任	助教	川越 明日香	平成26年4月	対人世界の心理学	担当教員の見直しのため(26)
				身体・かかわり・言葉	兼任	教授	山地 弘起	平成26年4月	身体・かかわり・言葉	
兼任	教授	田邊 秀二	平成26年4月	水環境の安全と安心 物質と化学反応						
兼任	教授	星野 由雅	平成26年4月	環境と社会	兼任	教授	藤本 登	平成26年4月	環境と社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	加藤 誠治	平成26年4月	国際援助と公的部門の役割						
兼任	教授	全 炳徳	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	教授	丹羽 量久	平成26年4月	情報の活用 情報と社会 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術 情報基礎						
兼任	教授	深尾 典男	平成26年4月	社会・メディア・政治 キャリア概論						
兼任	教授	須齋 正幸	平成26年4月	国際的視点に立った経済						
兼任	教授	鈴木 慶子	平成26年4月	日本語と表現						
兼任	教授	中川 泰	平成26年4月	芸術						
兼任	教授	宮崎 泰司	平成26年4月	被ばく者と医療						
兼任	教授	井田 洋子	平成26年4月	日本国憲法	兼任	教授	吉田 省三	平成26年4月	日本国憲法	教育内容の充実のため(26)
兼任	教授	岩田 修永	平成26年4月	生命の化学(ケミカル・サイエンス)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	嶋野 武志	平成26年4月	国際的視点に立った法と政治資源・エネルギー問題への取組み						
兼任	教授	蔣 宇静	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
兼任	教授	塚元 和弘	平成26年4月	疾病と薬物治療	兼任	教授	中嶋 幹郎	平成26年4月	疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	武藤 浩二	平成26年4月	疑似科学との付き合い方						
兼任	教授	菅原 潤	平成26年4月	環境問題の歴史から学ぶ東西文化交流の歴史						
兼任	教授	高尾 雄二	平成26年4月	地球温暖化を考える						
兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	兼任	教授	植田 弘師	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	濱田 久之	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	江藤 宏美	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	山本 太郎	平成26年4月	感染症と文明						
兼任	教授	才本 明秀	平成26年4月	物理学	兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	物理学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	武田 弘資	平成26年4月	生命の化学(かみかみ'イロ')						
兼任	教授	田崎 修	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	教授	濱野 真二郎	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	中島 正洋	平成26年4月	遺伝子と生命被ばく者と医療						
兼任	教授	西田 教行	平成26年4月	エイズと性感染症						
兼任	教授	工藤 崇	平成26年4月	話題の先進医学						
兼任	教授	木村 正成	平成26年4月	環境・生活と化学						
兼任	教授	薛 軍	平成26年4月	リスク社会と社会科学	兼任	准教授	穴倉 学	平成26年4月	リスク社会と社会科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	藤本 登	平成26年4月	資源・エネルギー問題への取組み	兼任	教授	藤本 登	平成26年4月	資源・エネルギー問題への取組み 環境と社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	吉田 謙太郎	平成26年4月	生物多様性を考える						
兼任	教授	高村 昇	平成26年4月	細胞と放射線						
兼任	教授	李 桃生	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	教授	橋爪 真弘	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	准教授	松本 武浩	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	福島 邦夫	平成26年4月	環境と民俗	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	松田 雅子	平成26年4月	東西文化交流の歴史					東西文化交流の歴史	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	新川 哲子	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	講師	林田 秀明	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	杉山 和一	平成26年4月	都市環境を考える						
兼任	准教授	菊池 泰樹	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	林田 雅希	平成26年4月	健康科学						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	准教授	勝田 順一	平成26年4月	破壊事故とヒューマンファクタ						
兼任	准教授	富塚 明	平成26年4月	地球温暖化を考える	兼任	准教授	富塚 明	平成26年4月	地球温暖化を考える 平和講座	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中村 修	平成26年4月	地域の環境を考える						
兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	自然を記述するための基礎数学	兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	自然を記述するための基礎数学 物理科学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	森山 雅雄	平成26年4月	地球環境の科学						
兼任	准教授	大橋 絵理	平成26年4月	異文化コミュニケーション 上級外国語(フランス語) フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	兼任	教授	大橋 絵理	平成26年4月	異文化コミュニケーション 上級外国語(フランス語) フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	鈴木 啓司	平成26年4月	遺伝子と生命						
兼任	准教授	本間 季里	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	准教授	小野 哲	平成26年4月	企業の仕組みと行動	兼任	教授	星野光秀	平成26年4月	企業の仕組みと行動	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	田中 俊幸	平成26年4月	科学と技術の安全・安心						
兼任	准教授	藤村 誠	平成26年4月	暮らしと情報の数理	兼任	准教授	藤村 誠	平成26年4月	暮らしと情報の数理 暮らしの中の情報科学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	竹下 哲史	平成26年4月	環境基本法と環境基本計画 化学薬品等の取り扱い 廃棄物のマネジメント	兼任	准教授	竹下 哲史	平成26年4月	環境基本法と環境基本計画 化学薬品等の取り扱い 廃棄物のマネジメント	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	阿比留 教生	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	准教授	中村 千秋	平成26年4月	コミュニケーションとICT	兼任	准教授	岡田 佳子	平成26年4月	コミュニケーション基礎実践A・B	教育課程(科目内容)の見直しのため(26)
					兼任	助教	當山 明華	平成26年4月	コミュニケーション基礎実践A・B	教育課程(科目内容)の見直しのため(26)
兼任	准教授	石原 淳	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	兼任	准教授	栗山 正巳	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	岡田 二郎	平成26年4月	コミュニケーションの生物学	兼任	教授	岡田 二郎	平成26年4月	コミュニケーションの生物学	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	尾崎 恵一	平成26年4月	生命の化学(たけなひ 付明)						
兼任	准教授	田中 邦彦	平成26年4月	細胞と放射線						
兼任	准教授	森田 千尋	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
兼任	准教授	和達 容子	平成26年4月	地球温暖化を考える						
兼任	准教授	井上 徹志	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	兼任	教授	井上 徹志	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	藤島 友之	平成26年4月	物理の考え方	兼任	教授	笏田 彰秀	平成26年4月	身の回りの中の物理化学	教育課程(科目内容)及び担当教員の見直しのため(26)
					兼任	准教授	杉本 知史	平成26年4月		
兼任	准教授	真木 俊英	平成26年4月	化学薬品等の取り扱い 環境分析技術(advanced class)	兼任	准教授	真木 俊英	平成26年4月	化学薬品等の取り扱い 環境分析技術(advanced class) ビギナーのための有機化学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	劉 卿美	平成26年4月	上級外国語(韓国語) 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ	兼任	教授	劉 卿美	平成26年4月	上級外国語(韓国語) 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ	担当教員の昇任のため(26)

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
兼任	准教授	和田 実	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性					
兼任	准教授	近藤 新二	平成26年4月	疾病と薬物治療					疾病と薬物治療 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	城谷 圭朗	平成26年4月	生命の化学 (かみい たいせ)					
兼任	准教授	山口 健一	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性					
兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報社会の安全と安心	兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報社会の安全と安心 情報基礎 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	柘島 力	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	兼任	准教授	岸川 直哉	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	河本 和明	平成26年4月	地球温暖化を考える	兼任	教授	河本 和明	平成26年4月	地球温暖化を考える 担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	谷口 弘一	平成26年4月	教育相談					
兼任	准教授	和田 光弘	平成26年4月	出島の科学	兼任	准教授	大山 要	平成26年4月	出島の科学 教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	神菌 健次	平成26年4月	社会制度と経済活動	兼任	准教授	式見 雅代	平成26年4月	社会制度と経済活動 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	菅 向志郎	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性					
兼任	准教授	長島 雅裕	平成26年4月	身のまわりの科学 疑似科学とのつき合い方	兼任	准教授	福山 隆雄	平成26年4月	身のまわりの科学 疑似科学とのつき合い方 担当教員の見直しのため(26) 教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	正田 備也	平成26年4月	情報と社会					
兼任	准教授	内野 成美	平成26年4月	教育相談					
兼任	准教授	古賀 掲維	平成26年4月	問題解決のアルゴリズム 情報化時代の仕事術	兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	問題解決のアルゴリズム 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	成田 真樹子	平成26年4月	国際社会と日本経済	兼任	准教授	古賀 掲維	平成26年4月	情報化時代の仕事術 モバイルウェアアプリケーション開発 入門 教育課程の充実のため(26)
兼任	准教授	保坂 稔	平成26年4月	国際社会と日本経済	兼任	教授	Basu Dipak Rag	平成26年4月	国際社会と日本経済 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	保坂 稔	平成26年4月	環境と社会運動	兼任	教授	保坂 稔	平成26年4月	環境と社会運動 担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	山口 純哉	平成26年4月	経済政策と公共部門	兼任	准教授	笹川 篤史	平成26年4月	経済政策と公共部門 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中垣内 真樹	平成26年4月	スポーツ演習 健康科学	兼任	准教授	中垣内 真樹	平成26年4月	スポーツ演習
兼任	准教授	山口 典之	平成26年4月	生物多様性を考える	兼任	准教授	山崎 浩則	平成26年4月	健康科学 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	山田 博俊	平成26年4月	環境・生活と化学					
兼任	准教授	大倉 真人	平成26年4月	経済活動と社会	兼任	教授	藤田 渉	平成26年4月	経済活動と社会 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	荻 朋男	平成26年4月	細胞と放射線					
兼任	准教授	柴田 裕一郎	平成26年4月	暮らしと情報の数理	兼任	教授	小林 透	平成26年4月	暮らしと情報の数理 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	渡辺 貴史	平成26年4月	都市環境を考える					
兼任	准教授	田山 淳	平成26年4月	健康科学					
兼任	准教授	小林 寛	平成26年4月	日本国憲法					

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	深見 聡	平成26年4月	地域の環境を考える 東西文化交流の歴史	兼任	准教授	深見 聡	平成26年4月	地域の環境を考える 東西文化交流の歴史 共同授業	教育課程の充実のため(26)
兼任	准教授	楠山 研	平成26年4月	教育行政・制度論	兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	教育行政・制度論	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	麓 伸太郎	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	兼任	助教	松永 隼人	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	齋藤 義紀	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	兼任	准教授	山田 耕史	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	西田 治	平成26年4月	芸術・スポーツとコミュニケーション						
兼任	准教授	小西 祐馬	平成26年4月	疑似科学との付き合い方						
兼任	准教授	土橋 カ也	平成26年4月	企業行動と戦略	兼任	教授	林 徹	平成26年4月	企業行動と戦略	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	准教授	大庭 誠	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	淵上 剛志	平成26年4月	出島の科学	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	山岸 賢一郎	平成26年4月	疑似科学との付き合い方	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	池谷 和子	平成26年4月	日本国憲法	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	黒滝 直弘	平成26年4月	平和講座	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	古本 裕美	平成26年4月	日本語上級ⅡA	教育内容の充実のため(26)
兼任	講師	金子 高士	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	准教授	木住野 達也	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	土居 裕和	平成26年4月	コミュニケーションの生物学					コミュニケーションの生物学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	嶋田 敏生	平成26年4月	人体の構造と機能	兼任	講師	辻 幸臣	平成26年4月	人体の構造と機能	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	田口 潤	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	助教	光武 範史	平成26年4月	遺伝子と生命	兼任	准教授	光武 範史	平成26年4月	遺伝子と生命	担当教員の昇任のため(26)
兼任	助教	玉井 慎美	平成26年4月	健康科学					健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	柳生 大輔	平成26年4月	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ 情報基礎	兼任	助教	柳生 大輔	平成26年4月	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	
					兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報基礎	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	佐藤 美穂	平成26年4月	グローバルキャリアへの扉						
兼任	助教	虎島 泰洋	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	助教	久保 隆	平成26年4月	科学と技術の安全・安心 環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション 化学薬品等の取り扱い 環境汚染物質のマネジメント 環境分析技術(advanced class)						
兼任	助教	一瀬 邦弘	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	助教	三浦 史郎	平成26年4月	遺伝子と生命						
兼任	助教	吉永 泰周	平成26年4月	健康科学						
兼任	助教	杉本 知史	平成26年4月	暮らしの中の物理科学	兼任	助教	杉本 知史	平成26年4月	暮らしの中の物理科学 身の回りの中の物理科学	担当教員の見直しのため(26)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	助教	高橋 圭介	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)					伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	西谷 正太	平成26年4月	コミュニケーションの生物学						
兼任	助教	堺 裕輔	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	助教	稲嶺 達夫	平成26年4月	疾病と薬物治療					疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	奥田 阿子	平成26年4月	異文化コミュニケーション 英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II						
兼任	講師	高橋 和雄	平成26年4月	科学と技術の安全・安心 自然災害とインフラ長寿命化					科学と技術の安全・安心 自然災害とインフラ長寿命化	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	米田 耕司	平成26年4月	芸術と文化					芸術と文化	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	篠崎 正人	平成26年4月	平和講座						
兼任	講師	平野 伸人	平成26年4月	被ばくと社会						
兼任	講師	安部 俊二	平成26年4月	疑似科学とのつき合い方 平和講座						
兼任	講師	姫野 順一	平成26年4月	東西文化交流の歴史 平成長崎塾 長崎学						
兼任	講師	植木 とみ子	平成26年4月	日本国憲法 ジェンダーと法						
兼任	講師	金子 修司	平成26年4月	基礎英語						
兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	平和講座	兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	平和講座 被ばくと社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	高橋 信雄	平成26年4月	被ばくと社会	兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	被ばくと社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	田川 直行	平成26年4月	基礎物理						
兼任	講師	赤星 正純	平成26年4月	被ばく者と医療						
兼任	講師	田元 正明	平成26年4月	基礎数学						
兼任	講師	筒井 保之	平成26年4月	基礎化学						
兼任	講師	平倉 充	平成26年4月	基礎生物						
兼任	講師	江口 勇治	平成26年4月	私たちと法						
兼任	講師	阿南 重幸	平成26年4月	解放講座						
兼任	講師	山上 徹二郎	平成26年4月	文学・芸術と核兵器						
兼任	講師	高瀬 毅	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	赤木 幹子	平成26年4月	文学・芸術と核兵器						
兼任	講師	古賀 正之	平成26年4月	ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ						
兼任	講師	関谷 融	平成26年4月	教育原理論						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	布袋 厚	平成26年4月	平成長崎塾						
兼任	講師	国武 雅子	平成26年4月	平和講座						
兼任	講師	大森 アユミ	平成26年4月	日本語と表現						
兼任	講師	西田 充	平成26年4月	核軍縮の法と政治						
兼任	講師	山口 剛史	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	黒崎 輝	平成26年4月	核兵器とは何か					核兵器とは何か	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	桐谷 多恵子	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	奥野 正太郎	平成26年4月	被ばくと社会						
					兼任	講師	坂巻 正伸	平成26年4月	キャリア概論	教育内容の充実のため(26)
					兼任	講師	川崎 昌子	平成26年4月	キャリア概論	教育内容の充実のため(26)

- (注) ・ 設置計画書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇)学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **意見個いで設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
 ・ **「事前個い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。**

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
()	()	()	()	()	[]	[]	[]	[]	[]	歳	名

5 教員組織の状況

<多文化社会学部多文化社会学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考				
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名					
専任	教授	福田 俊明	平成26年4月	現代言語理論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究										
専任	教授	佐久間 正	平成26年4月	教養ゼミナール 日本の思想文化 日本を知る 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 日本思想史 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	佐久間 正	平成26年4月	教養ゼミナール 日本の思想文化 日本を知る 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 日本思想史 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)				
専任	教授	門司 和彦	平成26年4月	グローバル人口学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究										
専任	教授	源島 福己	平成26年4月	企業の国際展開とその課題 日本語上級 II S 日本語上級 II A 日本事情 グローバルキャリアへの扉 地域をこえるマネジメント アフリカ諸言語からたどる文化 キャリア形成論 自主企画インターンシップ										
専任	教授	連 清吉	平成26年4月	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 中国語からたどる文化 中国語文献討論 I 中国語文献討論 II 中国語プレゼンテーション 中国思想史 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	連 清吉	平成26年4月	教養ゼミナール 中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 中国語からたどる文化 中国語文献討論 I 中国語文献討論 II 中国語プレゼンテーション 中国思想史 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)				
専任	教授	楊 暎安	平成26年4月	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 上級外国語(中国語) 中国語からたどる文化 中国語総合表現 I 中国語総合表現 II 中国語プレゼンテーション 対照言語学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究										
専任	教授	廣瀬 訓	平成26年4月	国際社会と平和 文学・芸術と核兵器 核軍縮の法と政治 グローバルキャリアへの扉 多文化のなかのルール 地域をこえるマネジメント 紛争と平和 国際機構論 軍縮と平和 国際協力論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任 准教授	近江 美保	平成26年4月	国際社会と平和	専任	教授	廣瀬 訓	平成26年4月	文学・芸術と核兵器 核軍縮の法と政治 グローバルキャリアへの扉 多文化のなかのルール 地域をこえるマネジメント 紛争と平和 国際機構論 軍縮と平和 国際協力論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)

設置時の計画				変更状況				備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	西原 俊明	平成26年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 英語からたどる文化 英語の仕組みと意味Ⅰ 英語の仕組みと意味Ⅱ コーパス言語学 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習							
専任	教授	王 維	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 文化は社会の鏡なのか 越境する文化 中国語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化交流論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	王 維	平成26年10月	教養ゼミナール アジア理解への扉 文化は社会の鏡なのか 越境する文化 中国語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化交流論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究 文化観光のマーケティング	前任校での業務の都合により、就任が遅延。平成26年度の教養ゼミナール及びフィールドワーク入門は他教員が担当するため、授業の開講に支障はない。(26)	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)
専任	教授	葉柳 和則	平成26年4月	教養ゼミナール ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ オランダ-ヨーロッパ理解への扉 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 文化表象論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究							
専任	教授	首藤 明和	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 現代アジア社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	首藤 明和	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 現代アジア社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)	
専任	准教授	森川 裕二	平成26年4月	教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 多文化社会のガバナンス 日本の中の世界、世界の中の日本 国際政治学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	森川 裕二	平成26年4月	教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 多文化社会のガバナンス 日本の中の世界、世界の中の日本 国際政治学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究 東アジアの国際関係	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)	
専任	准教授	近江 美保	平成26年4月	教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 国際人権論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	近江 美保	平成26年4月	教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 国際人権論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究 国際社会と平和	担当教員の変更のため(26)	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	正本 忍	平成26年4月	教養ゼミナール 環境問題の歴史から学ぶ オランダ・ヨーロッパ理解への扉 出来事と表象のあいだ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 アーカイヴ実習 社会史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究						
専任	准教授	野上 建紀	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎学 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アジア海域交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	野上 建紀	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎学 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アジア海域交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	増田 研	平成26年4月	教養ゼミナール 環境と民俗 共生のグローバル人類学 アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 紛争と平和 文化は社会の鏡なのか 他者と生きる技法 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 海外フィールドワーク実習 現代アフリカ社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	増田 研	平成26年4月	教養ゼミナール 共生のグローバル人類学 アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 紛争と平和 文化は社会の鏡なのか 他者と生きる技法 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 海外フィールドワーク実習 現代アフリカ社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	福島 邦夫	平成26年4月	環境と民俗	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	才津 祐美子	平成26年4月	教養ゼミナール 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 文化資源論 地域文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	才津 祐美子	平成26年4月	教養ゼミナール 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 文化資源論 地域文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	池田 (志々幸恵)	平成26年4月	教養ゼミナール 日本の言語と文化 長崎から出発するグローバル世界へ 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 アーカイヴ実習 日本語学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	波佐間 逸博	平成26年4月	教養ゼミナール コミュニケーションの比較文化 アフリカ理解への扉 紛争と平和 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 海外フィールドワーク実習 地域生態論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	波佐間 逸博	平成26年4月	教養ゼミナール コミュニケーションの人類学 アフリカ理解への扉 紛争と平和 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 海外フィールドワーク実習 地域生態論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 教育課程(科目内容)の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26) 担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	木村 直樹	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ オランダ-ヨーロッパ理解への扉 日本を知る 越境する文化 日本の中の世界、世界の中の日本 フィールドワーク入門 アーカイヴ実習 地域文化論 日蘭交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	木村 直樹	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ オランダ-ヨーロッパ理解への扉 日本を知る 越境する文化 日本の中の世界、世界の中の日本 フィールドワーク入門 アーカイヴ実習 地域文化論 日蘭交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	賽漢卓娜	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化と家族 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	賽漢卓娜	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化と家族 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究 家族社会学	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)
専任	准教授	Cutrone Pino	平成26年4月	教養ゼミナール 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 英語からたどる文化 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate 異文化間コミュニケーション 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Cutrone Pino	平成26年4月	教養ゼミナール 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 英語からたどる文化 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate 異文化間コミュニケーション 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	滝澤 克彦	平成26年4月	教養ゼミナール 人間観とコスモロジー アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 宗教文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	滝澤 克彦	平成26年4月	教養ゼミナール 人間観とコスモロジー アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 宗教文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究 宗教学	担当教員の見直しのため(26) 教育課程の充実のため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26) (26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	Compel Radomir	平成26年4月	教養ゼミナール 多文化社会のガバナンス アジア諸言語からたどる文化 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 比較政治 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Compel Radomir	平成26年4月	教養ゼミナール 多文化社会のガバナンス アジア諸言語からたどる文化 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 比較政治 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	Grajidian Maria Mihaela	平成26年4月	教養ゼミナール 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ 日本の中の世界、世界の中の日本 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク基礎実習 メディア文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Grajidian Maria Mihaela	平成26年4月	教養ゼミナール 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ 日本の中の世界、世界の中の日本 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク基礎実習 メディア文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	鈴木 英明	平成26年4月	教養ゼミナール アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 越境する文化 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 海外フィールドワーク実習 グローバル文化交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	鈴木 英明	平成26年4月	教養ゼミナール アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 越境する文化 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 海外フィールドワーク実習 グローバル文化交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
専任	准教授	見原(吉野) 礼子	平成26年4月	教養ゼミナール オランダ・ヨーロッパ理解への扉 グローバルキャリアへの扉 他者と生きる技法 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 異文化理解教育 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究						
専任	准教授	小松 悟	平成26年4月	教養ゼミナール 文化のなかのエコノミー 国際開発論 国際協力論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究						
専任	助教	南 誠 (梁 雪江)	平成26年4月	教養ゼミナール 社会学 アジア理解への扉 越境する文化 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 トランスナショナルリテリ 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	助教	南 誠 (梁 雪江)	平成26年4月	教養ゼミナール 社会学 アジア理解への扉 越境する文化 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 トランスナショナルリテリ 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	助教	石司 真由美	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ 紛争と平和 軍縮と平和 国際法 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	専任	助教	石司 真由美	平成26年4月	教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ 紛争と平和 軍縮と平和 国際法 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	Beukers Harmen	平成27年4月	オランダ現代社会論 オランダ文化論						
兼任	教授	Umali Celia Lopez	平成26年4月	国際経営						
兼任	教授	小笠原 真司	平成26年4月	英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 応用言語学 英語科教育法 I 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	兼任	教授	小笠原 真司	平成26年4月	English for Specific Purposes(A) English for Specific Purposes(C) 英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 応用言語学 英語科教育法 I 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	担当教員の見直しのため(26) 教育課程の充実のため(26)
兼任	教授	松山 章子	平成26年4月	途上国支援と国際保健 国際協力論						
兼任	教授	岡田 裕正	平成26年4月	経営情報と会計情報 地域をこえるマネジメント	兼任	准教授	津留崎 和義	平成26年4月	経営情報と会計情報	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	岡田 裕正	平成26年4月	地域をこえるマネジメント	
兼任	教授	廣江 顕	平成26年4月	英語コミュニケーションⅢ 総合英語 I 総合英語 II 総合英語 III Advanced English I Advanced English II English for Specific Purposes(A) English for Specific Purposes(B) 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 英語科教育法 II 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	兼任	教授	廣江 顕	平成26年4月	英語コミュニケーションⅢ 総合英語 I 総合英語 II 総合英語 III Advanced English I Advanced English II English for Specific Purposes(A) English for Specific Purposes(B) 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 英語科教育法 II 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	池田 俊也	平成26年4月	英米文学概論						
兼任	准教授	永井 智香子	平成26年4月	異文化接触とコミュニケーション 日本語上級ⅡS 日本語上級ⅡA 日本語指導法						
兼任	准教授	松本 久美子	平成26年4月	日本語上級ⅠS 日本語教育学概論						
兼任	准教授	松村 真樹	平成26年4月	世界人口の動向と国際開発 フィールドワーク入門 サーベイ基礎実習						
兼任	准教授	William Sherwood Collins	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate						
兼任	准教授	夢田 美有紀	平成26年4月	日本語中級Ⅱ読解 日本語上級ⅡS 日本語教育実習	兼任	准教授	夢田 美有紀	平成26年4月	日本語上級ⅡS 日本語教育実習	
					兼任	准教授	古本 裕美	平成26年4月	日本語中級Ⅱ読解	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中村 桂子	平成26年4月	核兵器とは何か 市民運動・NGOと核兵器廃絶 紛争と平和 軍縮と平和						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	助教	Beh Siewkee	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate	兼任	助教	Beh Siewkee	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	山下 龍	平成26年4月	英語で学ぶオランダと西欧の文化 オランダの言語 オランダの文化 オランダーヨーロッパ理解への扉 オランダ語Ⅰ オランダ語Ⅱ オランダ語Ⅲ 日蘭比較文化						
兼任	助教	隈上 麻衣	平成26年4月	第二言語習得論						
兼任	講師	古峨 和之	平成26年4月	教職実践演習						
兼任	講師	東條 正	平成26年4月	長崎から出発するグローバル世界へ 日本の中の世界、世界の中の日本						
兼任	講師	西原 和久	平成28年4月	グローバル社会学						
兼任	講師	森岡 直人	平成26年4月	教職論						教職課程認定申請を取り下げたことに伴う未開講(26)
兼任	講師	井石 哲也	平成26年4月	イギリス小説論						
兼任	講師	CHOWDHURY Mahbubul Alam	平成28年4月	アジア経済論						
兼任	講師	藤吉 圭二	平成27年4月	映像・デジタルアーカイヴ実習						
兼任	講師	山内 乾史	平成26年4月	教育の方法と技術						
兼任	講師	西原 真弓	平成26年4月	英語音声のしくみと働き						
兼任	講師	七井 誠一郎	平成28年4月	多文化マーケティング論						
兼任	講師	松岡 雄太	平成26年4月	アジア諸言語からたどる文化						
兼任	講師	四條 知恵	平成28年4月	記憶文化論						

- (注) ・ 設置計画書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の**就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成26年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **意見伺いで設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
 - ・ **「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。**

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
11	17	0	2	30	10	17	0	2	29	65	1
(10)	(17)	(0)	(2)	(29)	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	歳	名

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	該当無し		
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (26年4月1日)	<p>(その他意見)</p> <p>法律的アプローチを謳っていることを踏まえれば、例えば、国際社会における家族関係や取引関係などにおける法律的問題に対応できる能力を身につけられるよう、法律関係科目の教育内容の充実を図ることが望ましい。</p> <p>コーチングフェローの役割や業務内容を学内規則等で明示するとともに、事前研修を含めた資質向上を図るための取組を行うことが望ましい。</p> <p>「社会動態コース」の名称については、専門性の高い表現であるため、例えば「現代社会コース」などへの見直しも検討しつつ、受験生等に対して、コースの教育内容が適切に理解できるよう丁寧に周知することが望ましい。</p>	<p>法律関係科目の教育内容について、充実を図るため検討を開始した。(26)</p> <p>コーチングフェローの役割や業務内容について、「多文化社会学部に置く戦略職員に関する内規」に明示するとともに、平成26年1月に多文化社会学部教員等FDを開催し、採用前に研修を行う等、資質向上の取組を行っている。(26)</p> <p>多文化社会学部のホームページでコースについての説明を行うとともに、高校生や保護者を対象とした説明会等において、「社会動態コース」の名称や教育内容について丁寧に説明を行った。(26)</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (26年5月1日)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

7 その他全般的事項

<多文化社会学部多文化社会学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当無し	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教学に関する事項：学務委員会 研究に関する事項：総務委員会 ハラスメントに関する事項：ハラスメント防止委員会 その他必要に応じて該当する委員会で審議する。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>平成26年5月1日にハラスメント委員会を開催した(委員4名全員出席)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教学に関する事項は学務委員会、研究に関する事項は総務委員会、ハラスメントに関する事項はハラスメント委員会でそれぞれの事項について、今後、教員の資質の維持向上の方策を検討する。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>多文化社会学部の専任教員に対して、採用前に2度教員研修を行い、Transition Programやアクティブラーニングを取り入れた授業設計の方法等、主に本学部の特徴的な取組に関するFDを行った。</p> <p>b 実施方法</p> <p>第1回、第2回ともに専任教員就任予定者を集め、1泊2日の合宿を行い、講習だけでなくワークショップを取り入れ、参加型の研修を行った。</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>第1回は平成25年6月29日及び30日に開催し、31名中21名出席(欠席者10名) 第2回は平成26年1月25日及び26日に開催し、31名中28名出席(欠席者3名)</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>2回の教員研修であがった疑問点、改善点をふまえて、教養ゼミナールやフィールドワーク入門をはじめとする講義の実施方法等をブラッシュアップし、授業改善を行った。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>前期及び後期終了後に実施予定。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>今後、学務委員会において検討を行う。</p>

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
- 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的については、当初設定したとおりに実現しているが、今後更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向け取り組むことにしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

未定

b 公表方法

ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に評価機関の評価を受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成26年6月上旬予定)

長崎大学多文化社会学部戦略職員に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、長崎大学多文化社会学部に採用する戦略職員（国立大学法人長崎大学基本規則（平成16年規則第1号）第21条第1項に規定するその他必要な職員のうち戦略的業務に従事する職員をいう。）の身分、業務等に関し必要な事項を定めるものとする。

(身分等)

第2条 戦略職員の身分は、有期雇用の常勤職員とする。

2 戦略職員の雇用期間は、2年又は3年とし、予算の範囲内で雇用を更新することができる。この場合において、原則として、更新後の労働契約の期間の終期は、当初の採用日から起算して5年を超えないものとする。

(戦略職員の種類)

第3条 戦略職員の種類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 国際交流ディレクター
- (2) コーチングフェロー

(国際交流ディレクターの業務)

第4条 国際交流ディレクターは、国際交流委員会委員長の監督の下次に掲げる業務に従事する。

- (1) 学術交流協定及び学生交流に関する覚書等に関すること。
- (2) 学生の留学先大学等の開拓に関すること。
- (3) 学生の留学に係る諸手続に関すること。
- (4) 国際交流に関する情報収集及び情報発信に関すること。
- (5) 学生の留学中の危機管理及び各種相談に関すること。
- (6) 国際交流に関する諸調査及びプロジェクト申請に関すること。
- (7) その他国際交流に関すること。

(コーチングフェローの業務)

第5条 コーチングフェローは、副学部長（学務担当）の監督の下に教員との指導チームによる学生の教育を行うほか、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 学生の英語運用能力の強化に関すること。
- (2) 学生の教育補助に関すること。
- (3) 学生の修学指導及び学修管理に関すること。
- (4) 学生の留学相談に関すること。
- (5) 教育用教材の研究開発・作成に関すること。
- (6) その他学生の教育に関すること。

(戦略職員の業務の統轄)

第6条 学部長は、戦略職員の業務を統轄する。

(研究者番号の取得等)

第7条 コーチングフェローは、希望により研究者番号を取得することができる。ただし、研究に必要な経費は支給しない。

2 コーチングフェローは、副学部長（学務担当）の了承を得て、外部資金等の獲得のための申請をすることができる。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、戦略職員の身分、業務等に関し必要な事項は、学部長が別に定めることができる。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成26年5月8日から施行する。

長崎大学多文化社会学部に置く各種委員会に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、長崎大学多文化社会学部（以下「本学部」という。）に置く各種委員会の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この内規において「本学部の専任教員」とは、本学部の教授、准教授及び助教並びに本学部の教授、准教授及び助教を命じられている教員をいう。

(委員会の名称、組織等)

第3条 本学部には置く委員会の名称、組織及び審議事項は、次表のとおりとする。

名 称	組 織	審 議 事 項
総務委員会	1 副学部長（管理運営） 2 本学部の専任教員 5人 3 学部長が必要と認めた者	1 将来構想に関する事項 2 管理運営に関する事項 3 各種評価に関する事項 4 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項 5 諸規程等に関する事項 6 研究推進に関する事項 7 情報に関する事項 8 その他総務に関する事項
学務委員会	1 副学部長（学務） 2 本学部の専任教員 5人 3 学部長が必要と認めた者	1 教育課程に関する事項 2 学位に関する事項 3 学生の身分異動に関する事項 4 学生生活に関する事項 5 非常勤講師任用に関する事項 6 外国人留学生に関する事項 7 その他教務及び学生に関する事項
国際交流委員会	1 本学部の専任教員 4人 2 学部長が必要と認めた者	1 国際交流に関する事項 2 留学に関する事項 3 外国人留学生に関する事項(学務委員会の所掌事項を除く。) 4 その他国際交流に関する事項
入試・広報委員会	1 本学部の専任教員 6人 2 学部長が必要と認めた者	1 入試に関する事項 2 広報の企画・実施に関する事項 3 その他入試及び広報に関する事項
財務施設委員会	1 学部長 2 副学部長 2人 3 学部長が必要と認めた者	1 予算・決算に関する事項 2 施設設備に関する事項 3 その他財務及び施設に関する事項
就職委員会	1 本学部の専任教員 4人 2 学部長が必要と認めた者	1 学生の就職に関する事項 2 就職先の開拓に関する事項 3 インターンシップに関する事項 4 その他就職に関する事項

2 委員は、委員長推薦に基づき、学部長が指名する。

(委員の任期)

第4条 委員（職位を指定された者を除く。）の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、役職指定により委員となった者の任期は、当該役職の任期とする。

3 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会にそれぞれ委員長を置き、学部長が指名する者をもって充てる。この場合において、任期満了等により学部長が交代したときは、後任の学部長が改めて委員長を指名するものとする。

2 委員会にそれぞれ副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。

(専門部会)

第6条 第3条に定める委員会に、必要に応じ、特定の事項について専門的に調査・整理させるため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の任務、組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務については、別に定める。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営の細部に関し必要な事項は、委員会が別に定めることができる。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成26年4月10日から施行する。

長崎大学多文化社会学部ハラスメント防止委員会規程の制定について

制定理由

長崎大学におけるハラスメントの防止等に関する規則（平成16年規則第37号）第17条第2項の規定に基づき、長崎大学多文化社会学部に置く長崎大学多文化社会学部ハラスメント防止委員会の組織、運営等に関し必要な事項を定めるため、この規程を制定するものである。

平成26年4月1日

多文化社会学部規程第5号

制定権者 長崎大学多文化社会学部長 佐久間 正

長崎大学多文化社会学部ハラスメント防止委員会規程 (趣旨)

第1条 この規程は、長崎大学におけるハラスメントの防止等に関する規則（平成16年規則第37号。以下「規則」という。）第17条第2項の規定に基づき、長崎大学多文化社会学部（以下「本学部」という。）に置く長崎大学多文化社会学部ハラスメント防止委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) ハラスメントの防止等についての具体的方策に関する事項
- (2) ハラスメントの防止等の啓発活動についての企画及び実施に関する事項
- (3) その他ハラスメントの防止等に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本学部から選出した長崎大学ハラスメント防止委員会委員
- (2) 本学部から推薦した規則第18条第1項に規定する相談員
- (3) 学務委員会から選出された教員 1人
- (4) 文教地区事務部の事務部長、課長又は班長 1人
- (5) その他学部長が必要と認めた者

2 委員会は、男女両性により構成するものとする。

3 委員のうち、本学部の職員である者は学部長が命じ、その他の者は学部長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第5号の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、当該委員の任期の終期は、当該委員を命じた学部長の任期の終期を超えることはできないものとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学部長が指名する委員をもって充てる。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。

(関係職員の出席)

第8条 委員長は、必要に応じ、関係職員を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、文教地区事務部で処理する。

(補則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が別に定めることができる。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。